

# 日本の生活文化に触れるホームステイ。国際交流のホットな架け橋。

五十七年八月行われたモンタナ州（アメリカ合衆国）と熊本県との友好提携調印から、すでに三年の月日がたちました。  
交流活動の一環として、その年の夏休みから始まった両自治体高校生の相互交換のホームステイも二回目を迎えました。  
今年もダン・モアハウス君ら、十名の高校生が七月十一日から三十日までの二十日間、県内の各家庭に滞在、熊本の人々との交流を深めて帰っていきました。



県知事の歓迎をうけるモンタナ州の高校生。また緊張した表情です。



世界に誇る日本の二輪車。ホンダのマシーンに乗って皆、ゴキゲン

伝統工芸館では、緑茶をいただきました。お作法が難しかったです。



## 家族一人ひとりに、置き手紙を残して 帰国した、ターザンのようなアラン君。

ドナルド・アラン・ロシーを迎えて  
岩井宏一郎さん

彼をお客さんとして特別扱わず、食事その他全て家族と同じに扱いました。特に、妻のつくる日本料理などは、彼にとって生まれて初めての経験で馴じめないものもあつたはずですが、嫌な顔一つせず全部残さず食べてくれて本当に気持ちの良い子でした。

日本文化への関心は私達の想像以上のもので、碁を教えれば一日中碁盤に向かうといった熱心さで、とうとう兄弟にも教えるのだといつて碁石と盤をデパートで買い求め、アメリカへ持ち帰った程です。  
帰国後、彼が使っていた二階の机の上に家族一人ひとりにあてた手紙が置かれていました。帰国前は、荷づくりやお別れパーティーで忙しかつたのですが、きつと夜遅くまでかかつて書いたの



でしようね。むこうでレスリングをしているだけあつてターザンのようながっちりとした体格をしていましたが、こんなに気の優しい面も持ち合わせていたのかとホロリとさせられました。  
家族と遊び  
に行った

スバラシイ！ 初めて見る阿蘇の山々にアラン君も大感激でした。

## リサは、夜市で初めてはいたゲタで、 足をマメだらけにして、ニガ笑い。

リサ・ブラッドフォードを迎えて  
田浦ミツ子さん

ホームステイの承諾を主人から聞かされたときは、相手の両親の気持ちを察して、期待感よりも責任の重さが先に立ちました。

ありのままの生活を見せる覚悟はしていたものの、最初は、顔つきが変わるほど緊張してしまいましたね。今から思うとおかしいくらいですが……

むこうの高校生は、ドライダと思っていましたので、リサが純情でおとなしい子だったのには、意外な気がしました。

そんなリサの性格が日本式の生活に合ったのか馴じみも早く、玄関で靴を揃える、ふとんのあげさげも自分でするといった几帳面で清楚な生活でした。ご飯と味噌汁の朝食に舌鼓を打ち、さしみもイカ、タコまで平らげて、家族を驚かせました。

制服を着て、高校生の娘と一緒に学校に通い、バレーボールに参加したり、弓道に挑戦したり、また、家族と行った夜市では、初めてはいたゲタで歩き回り、足をマメだらけにしてしまったり、とにかく活発に動き回り、熊本の夏を楽しんで帰りまし



可愛いネ、よく似合うヨ、尚綱校の制服を着て、ちょっぴり恥かしそう。

に、この日本での経験が教師生活の中で役に立てばと願っています。

もうすっかり仲良くなって、二の丸公園で和気あいあいのバレーボール。



県立美術館のマイヨール展で、作品を觀賞する真剣な瞳は、皆同じでした。



七月の加藤神社の祭りに参加しました。サイコーに楽しい一日でした。

